NEWS LETTER
SEIGAKUIN NEWSLETTER
& Seig
No.
275
Dec.2019

特集

図書館のチカラ

&Seig NEWS LETTER
SEIGAKUIN NEWSLETTER
No. 275
Dec.2019

CONTENTS

01
&Talk ［図書館のチカラ］

05
focus-図書館のチカラ［聖学院小学校］

06
focus-図書館のチカラ［女子聖学院中学校・高等学校］

07
focus-図書館のチカラ［聖学院中学校・高等学校］

08
focus-図書館のチカラ［聖学院大学］

09
在校生の活躍

10
私のオススメの一冊

11
Seig NEWS

14
Our Mission

15
聖学院歴史探訪

編　　集／学校法人聖学院　学院広報センター
デザイン／株式会社キュー・ジー
発 行 日／2019年12月20日

絵本のもつ可能性

大川　聖学院中高では生徒が図書館で読み聞かせを行っています。※1 学校説明会に参加される方の中に、受験生の弟や妹を連れてくる保護者がいます。小さい子どもたちは試験や資料の話に飽きて泣き出します。そうするとお母さんが子どもをつれて申し訳なさそうに講堂から出ていくんですね。その姿を見て、学校説明会の間、小さい子どもたちを図書館であずかって絵本の読み聞かせをしてはどうかと思いました。せっかくなので生徒に読み聞かせをさせたら面白い。そこで募集をかけ、6年前から生徒による読み聞かせが始まりました。絵本を選ぶとき生徒の中から「この表紙、覚えている。これ、（小さいときに）読んでもらった」と声があがったのが印象的でした。

最初は、生徒の自己表現としての場と、小さい子に聞いてもらえる場があれば、お互いによいのではと思い、始めました。最近はその先の

図書館のチカラ
絵本とアーカイブ

&Ta

大川 功

聖学院中学校・高等学校 国語科教諭、図書館部長。2013年より図書館教育の改革に取り組む。動的図書館としてさまざまな企画を立ち上げ、3年で来館者数を4倍、貸出冊数を3．5倍にした。授業や図書館活動は多くのメディアで紹介されている。専門は近代日本文学。

段階で、生徒たちが10年、20年経て、読み聞かせのできるお父さんになって欲しいと考えています。そのために中1から高3まで全員で取り組んでいます。読み聞かせの定義は色々ありますが、そこはあまりこだわらずライブ感を大切にしています。ただ読むのではなく、次のページがどうなるか子どもたちに問いかけながら進めます。予想外の答えが返ってくることも多々ありますが、否定せずに「それも面白いね」と言いながら本をめくっていきます。参加した生徒の中には、自分を表現するのが得意ではない子もいたのですが、こうしたやり取りができているのを見ると、絵本の広がりを切に感じます。

寺﨑　読み聞かせではお互いに声のやり取りが自然に起こって読みが共有されます。学生たちが保育園でのボランティアで読み聞かせの機会に恵まれたときのことです。『おおきなかぶ』（A.トルストイ再話、内田莉莎子訳、佐藤忠良画、福音館書店、1966年、大型絵本1998年）を選んで、「うんとこしょ　どっこいしょ」のところを子どもたちにも言ってもらう演出を考えました。何度も予行練習をして臨んだ本番では、学生が呼びかける前に、絶妙のタイミングで子どもたちの方から「うんとこしょ、どっこいしょ」と大きな声があがりました。意外な展開に学生たちはびっくりしていましたが、次のくり返しからは、子どもたちの声に合わせて本を揺らし、一緒に〈大きなかぶ〉を引っ張りました。「うまく読まなくては」という緊張が解けてうれしくなったそうです。子どもと一緒に読むのは楽しいです。

大川　読み聞かせは同じことは二度と起きないライブ感が魅力ですね。宮本先生には、生徒たちの読み聞かせを取材していただきましたが、感想などありますか？

宮本　長く読み聞かせをやっている高学年の生徒が自信をもって、下の学年の生徒にアドバイスをしているのが印象的でした。その際、決

lk

**図書館は本を収集し保管しているだけの場所ではありません。
特に聖学院の図書館は様々な取り組みをしています。
その取り組みを通して見える図書館の可能性と、
デジタル化が進む現在において所蔵することがもつ意味を
3名の専門家に集まってお話しいただきました。**

寺﨑 恵子

聖学院大学人文学部児童学科准教授。2013年度より聖学院大学総合研究所子どもの人格と絵本研究プロジェクトに参加。子ども−大人−絵本の三項関係論と、自然誌興隆のただ中に生きたジャン＝ジャック・ルソーの言語起源論・教育思想とをパラレルに考察しているところ。

宮本 聖二

早稲田大学法学部卒業後、NHK入社。沖縄放送局で基地問題や沖縄戦の番組などを制作。報道局おはよう日本、編成局などを経て、「戦争証言プロジェクト」、「東日本大震災証言プロジェクト」編集責任者。現在、立教大学大学院教授、Yahoo!ニュースプロデューサー。

して否定はしないのが、大川先生のご指導を受け継いでいて実に素晴らしいと思いました。また生徒が、読み聞かせを通して幼い頃読んでもらった絵本に再び出会うというのが、すごく良かったです。

大川　夏に仙台で絵本の協会が主催する勉強会に参加しました。そこで聞いた話ですが、昔、お子さんに読んであげた本を、そのお子さんがお孫さんに読んであげているそうです。お子さんからお孫さんに時間を経て絵本がつながって行く。本当に素晴らしいですね。

寺﨑　世代を超えた交流になりますね。今、大人たちのあいだでも絵本は読み親しまれています。「あ、そういえば…」と過去の情景がよみがえってくるようです。絵本に癒やされたという声も聞かれます。欧米では読書療法が認められていますが、日本でも福祉的な視座での読み聞かせ研究が進められています。高齢者との絵本の読みあい、また、受刑者の更生支援としての読みあいも行われています。絵本を読むことが、記憶に潜む内なる子どもとの邂逅になり、自分自身の生き方や他者との関係性の更新になる。絵本には、なにか不思議な力があるようです。

大川　子どものものという限定を解除したところに、更に可能性が広がりますね。

「高齢者の心のケアや受刑者の更生にも読み聞かせの可能性が開かれています」と語る寺﨑先生

デジタルアーカイブと図書館の役割

大川　110余年続く聖学院の歴史をしっかり残していきたいと思い、戦前からの資料をまとめてデジタル化しています。デジタルアーカイブの専門家である宮本先生にアドバイスを頂くことで、学校の歴史だけではなくて、日本の庶民の生活に関することも聖学院の資料から引き出せるかもしれないと思っています。

宮本　デジタルアーカイブは、大きく言うとインフラであり、そこにあるコンテンツやその見せ方、あるいはそれを使って何ができるかです。例えば図書館は本が整理されていますが、今までは足を運ばないと欲しい情報が見れませんでした。今はデジタル技術の発展で、体調の悪い人でも家に居ながら図書館の所蔵物を見る事ができます。大川先生のように学校の歴史をまとめる動きが広がれば、各学校のアーカイブがつながって、教育やその周辺の全体像が浮かび上がってくると思います。

文科省の組織である国立教育政策研究所には、図書館学の研究者で統括研究官をしている江草さんという方がいます。その方のもとで日本の明治以降の教科書全てをデジタル化していて、公開もされています。例えば昭和16年、私たち日本人は日中戦争が泥沼化していた中、新しい戦争を受け入れました。なぜそんなことをしたのだろうと今は思いますよね。それを知るにはその時点で人々がどういう教育を受けて、どんなメディアから情報を摂取して、そこにどういうものが書かれていたのかをずっと見ていく必要があります。デジタル化が進んでいますが、永らく保管されたコンテンツを共有しようという動きは案外ないのです。ですから貴重なコンテンツ資料にはプラットフォーム化を提案して、共有を呼びかけ各所に働きかけています。

寺﨑　「今」を生きて未来を構想しながら、同時に、「今」に過去が流れこんでくるところにアーカイブがあると思います。今のことが次々に消え去っていくようでも実はそうではない。今はわからなくても、後でふと「あれはそういうことだったのか」と解ることがあります。記録されたことに今を重ねて読んでみる。今を生きる自分のなかに、生きられた時間・歴史をよんでみる。私たちの記憶を喚起して考える助けになるアーカイブが必要だと思います。

宮本　サーバーの容量も増えましたし、動画も含めて整理して保管できる時代になりました。しかし大川先生のように「デジタルアーカイブ化したらみんなで共有できるよね」と思う人を増やさなければいけません。それがこれからの課題です。

大川　貴重品のように鍵をかけてしまうのは、意味がないですね。それも我々が生きていく為の教材であって、人間、同じ過ちを犯しますしね。世代が違っても、この雰囲気は昔にもあったんじゃないかと疑問をもち、そういう時に現物が見られるとか、こういう時は、自分で抑制した方がよいと判断できます。アーカイブは教材として大いに可能性のあるものだと思います。

「人間は同じ過ちを犯します。アーカイブは疑問に思ったことを過去から判断する教材として大いに可能性があると思います」と語る大川先生

寺﨑　図書分類法からはみ出す絵本は、検索が難しいです。作者名や書名を忘れてしまっている場合や、作品のイメージや内容もあいまいなことがあります。

宮本　理想としては、図書や書籍、絵本も全文検索ができる事ですが、出版社との問題があります。全ての書籍の全文がデジタル化されていけば、こんな場面があったというだけで検索ができるようになります。Googleブックスは、そうしたことをやろうとし、グーテンベルクの

前編　後編

この鼎談を動画でも見ることができます。

誌面に収まりきらなかった話などもありますのでこちらも是非ご覧ください。

活版印刷以来の新たな革命と言われています。色々なところに著作権の問題（複製権や公衆送信権）はありますが、著作権の切れたものは、パブリックドメインとして、全文ファイル化されていくと思います。これからネットが制御しなければならないのは、信頼できるデータを一つの窓口からしっかり検索できるようにすることで、「ジャパンサーチ※2」というポータルでは、日本の文化資源（特に書籍、美術など）を検索できます。まだベータ版ですが、きちっと機能してくれば、ネット上の危うい情報コンテンツとの差異化が図れるでしょう。そういった時代を実現しなければいけないと思っています。

寺﨑　いわゆる人工知能は、そこで活躍できますか？

宮本　そうですね。今はGoogleでさえも検索に関しては検索エンジンというロジックしか選択がないので、信頼できないコンテンツも上位に表示されることがあります。そういう精度の改善はA.I.の発達で加速するかもしれません。A.I.を使わなくても現段階では大川先生の作ったアーカイブのように、裏付けの取れたきちっとしたものだけを結ぶという手段もあります。そのためにはポータルの下にアグリゲーターというデジタルアーカイブを判断する人が必要になります。

寺﨑　人の目で精査する必要があるということですか？

宮本　そうですね。各分野の良質なアーカイブを集めるアグリゲーターがいて、彼らが集めたアーカイブをさらに一つに結んだポータルエンジンを入り口とする構造です。ヨーロッパではEUが中心となって、文化財や文化資源を一つの入口から見せましょうと、数年前から取り組んでいます。こうして徐々に無法地帯と思われがちなネットの世界が整理されていってます。

歴史をつなぐためにアーキビストの育成を

寺﨑　ライブ感が要となる絵本の読み聞かせや、即興性の強い遊びなどのアーカイブ化はどうでしょうか？遊ばれなくなれば遊びはそのまま消失します。厳密な記録でなくてもよいので、保存して次の世代に伝えていきたいところですが、難しそうですね。

宮本　子供の遊びで言うと童歌は、NHKと東京藝術大学が、1940年くらいから50年かけて北海道から沖縄奄美までのものを音源として収集、保存しました。保存されたものは『日本民謡大観』という本として発表されています。音源自体もレコードやCDとして一部の地域を除き発表されました。遊びに関しては、『日本こどものあそび大図鑑』といったものが20数年前に出て話題になりました。こういうものこそデジタル化するべきだと思います。それと同時に童歌の音源のデジタル化も組み合わせてアーカイブ化を進めるとよいと思います。しかしなかなか意欲を持ってやる方が現れない。

私たちがやらなければならないのは、アーキビスト（あるいはライブラリアン）の育成ですね。アーカイブは、それがどう役立つかまで想像してキュレートをしてあげないと、ただのデータベースになってしまいます。利用者が限られてしまい広がりません。そのためには地域や公民館、図書館で活動し、コンテンツを採取、保管し、メタデータもつけられるスキルが求められます。アーキビストを職業として成立させる必要があると思います。

「アーカイブは、キュレートしないと、ただのデータベースになってしまいます。アーキビストを職業として成立させる必要があると思います」と語る宮本先生

大川　今日お話を伺っていると、「つながる」という言葉がキーワードかな、と気付きました。それを形にして、聖学院の中に博物館を作れないかと思っています。一つは常設展として歴史的なものを現物を含めて年表で辿ります。もう一つは、聖学院に関わる人が今夢中になっている物を順番に一定期間展示していくものです。大学や大学院、女子聖学院、聖学院中高、小学校、幼稚園と色々な方が関わって、ここに来れば聖学院全体の歴史がわかり、ある学校のこの人の興味を持っている物が見られる。そんなつながりの場を持ちたいですね。

寺﨑　散在する点が色とりどりの線になってつながっていく。聖学院の図書館のネットワークがつながると良いと思います。

大川　聖学院中高と女子聖学院中高と大学とは本の相互の貸し出しができるようになっていて取り寄せたり送ったりしています。

寺﨑　さらに交流が深まって盛んになると、面白いですね。

大川　寺﨑先生の学生の読み聞かせのように、こちらの予想を超えるような何か化学変化が起こることを期待します。

※1 聖学院中学校・高等学校図書館の活動は、図書館専用HP（http://library.seig-boys.org/）からご覧いただけます。
※2 ジャパンサーチは、書籍等分野、文化財分野、メディア芸術分野など、さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携して、我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる「国の分野横断統合ポータル」です。また、ジャパンサーチが集約したメタデータを、検索以外にも、利活用しやすい形式で提供し、コンテンツの利活用を促進する基盤としての役割も果たします。
（出典："ジャパンサーチの概要" https://jpsearch.go.jp/about）

休み時間や放課後には子どもたちが次々やってきて活気に満ちます。

（上）1日に貸し借りされる本の数は500〜600冊。カウンターにも子どもたちが次々やってきます。
（下）図書委員によって作られた楽しいポップが壁や仕切り戸いっぱい貼られています。本が好きなのがとてもよく伝わってきます。

聖学院小学校

空間としての図書室

聖学院フェアでのブックストア
家でもう読まなくなった本を持ってきてもらって聖学院フェアで販売をするイベント。売り上げは災害復興支援などに寄付されます。子どもたちは、唯一販売に関われるコーナーなのでいきいきと「本屋」をこなしています。

教室以外の居場所であり、学年を超えて子どもたちがつながる起点

聖学院小学校では一人ひとりの賜物を大切にする理念のもと、子どもたちの個性を尊重しています。休み時間に外で遊びたい子もいれば、友達と話したい子、一人で本を読みたい子もいます。聖学院小学校はそれぞれの児童に、過ごしやすい居場所を用意しています。そして、一人で本を読みたい子の居場所として図書室の存在があります。子どもたちがリラックスして本が読めるよう空間づくりにも工夫がされています。例えば背の低い本棚や曲線の本棚で空間を区切ることで、隠れ家のようなプライベートスペースをいっぱい作っています。こうした工夫には、ただ本を読むとか借りるだけの場所ではなく、子どもたちにとって快適で魅力的な場所にしたいという想いが込められています。

また聖学院小学校の児童はとても本好きで、1日に500〜600冊の本が貸し出しされています。平均すると一人1日1冊以上、月で30冊以上読んでいる計算になります※。そのため図書室にはいろんな学年の児童が出入りをし、学年を超えて交流が生まれています。聖学院小学校にはスクールランチという給食の仕組みがあり、2日に1回、クラスではなく1〜6年生一人ずつで構成されたグループでお昼を食べます。日常的に他の学年の子どもたちと触れ合う土壌があるため、図書室でもコミュニケーションがとりやすくなっています。さらに新1年生が入ってくると上級生が自発的に面倒を見る傾向があり、本の読み聞かせなどをしています。

「児童の中には同じ学年で付き合うのが苦手な子もいます。そういう子も別の学年の子とは仲良くなれることもあります」と田村教頭先生。聖学院小学校の図書室は、既成の概念にとらわれず、教室や学年という枠を超えて子どもたちがつながる起点になっていました。

※小学生の1ヶ月の平均読書量は5.0冊
（出典：白書シリーズweb版　小学生白書web版2018年9月調査　小学生の日常生活・学習・自由研究等に関する調査　日常生活について　学研教育総合研究所
https://www.gakken.co.jp/kyouikusouken/whitepaper/201809/chapter4/14.html）

女子聖学院
中学校・高等学校

図書館学習

推薦図書リスト

生徒に読んで欲しい本を先生方が選んでリストにした冊子。生徒にも好評で冊子をきっかけに今まで読まなかった本を手に取る生徒もいます。そこには先生と生徒の信頼関係を見ることができます。

調べるだけではなく、様々な角度から情報を見られる力を身につける

インターネットの検索で知識や情報が得られる現在、情報の真偽を判断するリテラシーだけでなく、自分で調べる力がますます重要になっています。女子聖学院中学校・高等学校では、中学1年と2年の図書館学習を通して調べ方を学び、情報を整理しまとめる力を培っています。

中学1年は「図書館の本の分類方法」と「本の探し方」を学びます。多くの図書館で採用されている十進分類法を理解し、与えられた設問を解くために必要な本を探します。こうして本で調べることに慣れていきます。

中学2年はレポート課題です。「キング牧師」「キリシタン」など決められたテーマに関する幾つかの問いと、その答えを得られる本が設問に書かれています。本を探して答えに必要な箇所を選び、テーマとのつながりを理解しながらレポートにまとめます。

図書館学習は、調べ方や書き方だけではなく、様々な分類の資料を読むことで人文、社会、歴史などいろいろな角度からテーマを見る目的があります。そのため一つの本、一つの分類で書けてしまうテーマでは課題として成立しません。そこにテーマ作成の難しさがあります。いろいろな分類の本を使うテーマを作るため、この授業を担当する司書の山田麻美先生は常にいくつかのテーマを頭の片隅に置き、並行して考え続けています。

「調べ物というのは、一つを調べれば終わりじゃないということを生徒に知って欲しい」と山田先生。

一つのソースに頼ることなく多角的に判断できる力は将来大きなアドバンテージになります。その力をつけさせるため時間を惜しまずにじっくりと生徒と向き合う。30年以上続く図書館学習には女子聖学院中高だからこそできる学びがありました。

（上）質問があれば親身になって教える司書の山田先生。
（下）図書館学習は簡単ではないけれど、とても楽しいです。

課題に書かれている本を探す生徒たち。中学1年で十進分類法を学んでいるので目的の本棚はスムーズに見つけられます。

図書館での読み聞かせの様子。どの席からも見やすいように絵本の角度にも気を付けています。子どもたちも夢中です。

（上）読み聞かせの合間のワークショップで作った地球儀としおり。
（下）図書委員長の三浦くん。手にしているのは月1回図書委員で発行している図書館だより「SEIG LIB-NEWS」。

聖学院
中学校・高等学校

図書館の読み聞かせ

「高校生直木賞」に参加

前年の直木賞候補作の中から、高校生が集まって議論し、「今年の1作」を選ぶ「高校生直木賞」。聖学院高校も参加していて、樋口慧くんが代表として選考会に出場しました。

固定観念にとらわれず、アイディアに満ちた図書館

聖学院中学校・高等学校の図書館では、他校ではあまり見かけないユニークな取り組みを行っています。学校説明会に親と一緒に来た幼い子たちが退屈しないよう、また親も学校説明会に集中できるよう図書館で子どもに絵本の読み聞かせをするという取り組みです。読み聞かせをするのは図書委員や有志の図書ボランティアの生徒たち。来場者のためにもなり、生徒の成長も促すことができます。読み聞かせは一人1〜3冊、絵本選びは先生がするのではなく、生徒が自分で決めます。また、読み聞かせの途中で子どもたちに「この後どうなると思う？」と問いかけたり、全員が見やすいように絵本の角度を調整したり、声の抑揚で場面を演出したり、生徒たちは本気で子どもたちに喜んでもらえるよう努力しています。終わった後に子どもたちから「面白かった」と声が上がり、とても好評です。

読み聞かせ以外にも記念祭（文化祭）でキーホルダーを配ったり、広島の原爆の新聞記事の展示をしたり、図書館に興味を持ってもらうための企画を生徒たちが次々と考えています。他校の図書館にもどんどん出向いて交流をもったり情報交換したり積極的に活動しています。

他の男子校の場合、活発な生徒はスポーツに勤しみ、図書委員は比較的大人しい生徒がなることが多いため、活気が出にくいことがあります。聖学院中高のように活気がある学校は珍しく、他校から先生方が読み聞かせを視察にくることもあるそうです。

「図書館にはいろんな可能性がある。そのことをもっと知ってほしい」と図書委員長の三浦遼馬くん。図書館部長の大川先生も「静かにしないといけないという固定観念があるけど、図書館はもっと自由でいい」と言います。聖学院中高の図書館は先進的でエネルギーに満ちた空間でした。

聖学院大学

総合図書館の学修支援

アクティブラーニング室
プロジェクターや無線LANを完備し、ディスカッションやプレゼンテーションができる部屋を用意しています。人的な支援だけではなく空間を提供するという形でも学修支援をしています。

カウンターを越え、積極的に支援する図書館へ

大学の図書館には論文や研究など知をアーカイブする機能があります。そして最近はアーカイブにとどまらず、そこで培われた情報リテラシーやデータベースの知識や技術を教育の場へ還元する動きがあります。聖学院大学総合図書館では、学科からの要請に応え、学生を対象に図書館の使い方や論文、蔵書の検索の仕方を教えるオリエンテーションを行なっています。一見簡単に思える蔵書の検索も、図書館には分類にルールがあり、それがわからないと約30万冊を抱える書架から目的の本を見つけ出すことはできません。また論文の場合、聖学院大学の図書館にある論文にとどまらず、海外の図書館にある論文を検索できる専門的なデータベースを使います。そのデータベースの使い方、取り寄せる場合にはどんな情報を司書に伝えれば良いのか、さらには引用するときの引用の書き方まで教えています。他にも国会図書館に行って使い方を体験する演習や、プレゼンテーションソフトの使い方、プレゼンテーションの練習指導なども行なっています。

学生数によっては、学科単位で個別に参考文献や情報収集に関する指導を行うのが難しいことがあります。大学総合図書館がオリエンテーションを担うことで、大学全体の学修が効率的にすすめられます。「質の高いオリエンテーションを実施すれば学生の検索スキルのレベルがあがり、結果的に学生はよりよい論文が書けます」と司書課課長の中山さん。教え方の質にこだわり積極的に支援する姿は、静かに本の分類と管理をするという司書のイメージの認識を変えるものでした。

（上）論文データベース「CiNii」を使って実際に論文を探してみる。どうキーワードを入れると効率よく検索できるかも指導します。（下）図書館の情報検索ページ。ページの構成やどういうときにどの機能を使うと便利か、自分の論文に引用するときのルールなど教えてくれます。

欧米文化学科の卒業研究の支援として行われたオリエンテーション。図書館の蔵書、論文データベースの使い方を学びます。これから実際に参考文献などを探すのでみんな真剣です。

米花 大智

活躍ファイル *No.11

聖学院大学人間福祉学部　こども心理学科　4年

在校生の活躍

『ひきこもり』なんて言葉を使うから ネガティブなイメージになると思う

11月1日（金）、ヴェリタス祭(大学祭)期間中に開催された公開講演会「広がる中高年ひきこもり」に就労支援のボランティアを行う学生の代表として登壇した米花さん。若者の就労支援ネットワーク・ムーミンの会という団体が、毎年9月、3日間の就労支援合宿を開催していますが、米花さんは大学1年生の時からボランティアとして参加しています。ボランティア活動をコーディネートする大学でのイベントで、先輩に声を掛けられこの活動を知ったそうです。合宿に参加する支援対象者は就労経験がある人も多く、ふとしたことがきっかけで職場から離れてしまっています。そして、この合宿の効果があって、再就職が叶ったという対象者は少なくありません。そうした報告を受けたときは、本当にうれしいと米花さんは顔をほころばせます。「『ひきこもり』なんて言葉を使うからネガティブなイメージになりますが、ただの『休み』として僕は捉えています。」もともと人から相談されることが多く、カウンセリングに関心があって入学しましたが、大学の授業や、こうした活動を通して、人との関わり方を、理論的にも技能的にもしっかりと学ぶことができたと言います。今は、いじめの問題に関心があり、命をムダにする行為に対しては強い憤りを感じているそうです。大学を卒業して4月から社会人になります。直接、福祉や支援の仕事に就くわけではありませんが、「自分の手が差しのべられる人たちには常に手を伸ばし続けていきたい。」と米花さんのミッションを語ってくれました。

私のオススメの一冊

誌上書評バトル

QRコードよりアンケートにアクセスして一番読みたくなった本にご投票ください。
投票の結果はNEWS LETTER 276号（3月発行）誌面で発表します。
ご投票いただいた方の中から抽選で記念品をプレゼントいたします。

大川 功 先生 推薦
聖学院中学校・高等学校国語科教諭
同図書館部長

「ルリユールおじさん」
いせひでこ 作／講談社

「ルリユール」とは、古い本を修復する工房職人。ある少女が持って来た大切な植物の図鑑を、職人がていねいな手作業により修復させる過程が克明に描かれています。著書・いせひでこは、ルリユール本人を尋ね、彼の仕事への集中力を削がないよう会話を一切挟まず、スケッチのみで取材し、この絵本を描きました。クリスマスに読みたい名作。

寺﨑 恵子 先生 推薦
聖学院大学人文学部児童学科准教授

「木」
佐藤忠良 画、木島始 文／福音館書店

今回の鼎談の後、読み返した本。佐藤忠良は、『おおきなかぶ』の絵も手がけた彫刻家。描線に木の手ざわりと息づかいを感じます。木島始は、黒人文学の翻訳家・詩人・童話作家。言葉に木魂を感じます。本は「木の根もと」が原意。本に触れて自分の根っこを感じ、自分の木を抱く。「むかしと いまが いっしょに いきをしている」。

宮本 聖二 先生 推薦
立教大学大学院教授

「シュガーローフの戦い 日米少年兵達の戦場」
新里堅進 著／琉球新報社

住民を巻き込んだ激しい地上戦で、県民の４人に一人の命が失われた沖縄戦。少年少女が戦場に駆り出されました。体験者の話を聞き取ってその証言をもとに漫画家の新里堅進さんが少年兵の過酷な体験を物語にしました。今の高校生の世代が何を体験して何を見たのか、どのように同級生を失ったのか、辛い出来事を丁寧に描いたものです。

松野 聖子 司書 推薦
聖学院小学校図書室司書

「100万回生きたねこ」
佐野洋子 作・絵／講談社

様々な飼い主のもとで、輪廻転生を繰り返してきたことを自慢してきた主人公のねこは、ある時、のらねこに生まれ、白いねこに出会い、初めてその白いねこと共にいつまでも生きたいと思うのです。図書の時間の読み聞かせで欠かすことのできない一冊です。読み終わった後で一言、「大きくなったら、もう一回読んでごらん！！」

山田 麻美 司書 推薦
女子聖学院中学校・高等学校図書館司書

「サンタクロースのおてつだい」
ロリ・エベルト 文／ペール・ブライハーゲン 写真／ポプラ社

ちいさな女の子オンヤの夢は、サンタクロースのお手伝いをすることでした。ある日オンヤは心を決めてサンタクロースに会いに出かけます。小鳥や馬やジャコウウシやしろくまがオンヤをサンタクロースのもとへ案内してくれます。迎えに来てくれたトナカイに乗って、オンヤはサンタクロースの元へ！
この写真絵本、写真を撮ったのはオンヤのお父さん、文章はオンヤのお母さんです。

中山 浩二 司書 推薦
聖学院大学総合図書館司書

「ダメ犬グー 11年+108日の物語」
ごとうやすゆき 著／幻冬舎

犬のグーちゃんとの出会いから、別れまでを綴ったエッセイ。犬の生態や習性を良く捉えた日常のお話がユーモラスに描かれています。また、介護や看取りのエピソードでは、犬を飼ったことのない人でも家族や命の大切さについて考えさせられるでしょう。巻末の「たいせつなもの」という詩は、涙無しに読むことは出来ません。

まだまだあります！

Seig NEWS

学生も生徒も教員も職員も
次のステップへと
日々新しい試みをしています。

聖学院大学

SDGs、ダイバーシティをテーマとした公開講演シリーズを実施中

聖学院大学政治経済学部はSDGs及びダイバーシティを主題とする公開講演会を実施しています。11月2日（土）は宝来館女将　岩崎昭子氏による講演を実施。11月20日（水）は国連WFP（国連世界食糧計画）の大室直子氏の講演。「SDGs達成を目指して生きるということ」をテーマに、世界の飢餓の解決に向けた国連WFPの取組みを、ご自身の活動の体験を通して語っていただきました。2020年1月15日（水）には国際移住機関（IOM）の佐藤美央氏による講演「人の移動とSDGs」の実施を予定しています。

聖学院大学

ヴェリタス祭

11月1日（金）・2日（土）第32回ヴェリタス祭（大学祭）が開催されました。2019年度のテーマは「一発笑舞」。ヴェリタス祭実行委員会を中心に、学生団体や教職員が野外ステージやチャペル、各教室といったキャンパス全体を活用し、飲食店や展示、演奏や講演を企画。また、1日には「広がる中高年ひきこもり」と題して藤田孝典先生、2日には「生き続けるということ～宝来館女将が語る釜石のあの日・今・未来～」と題して岩崎昭子氏による公開講演会を実施。各種イベントを通して大学における取組みや成果を分かち合い、地域との交流を深める時となりました（入場者数・1、2日計／2,773名）。

聖学院中学校・高等学校

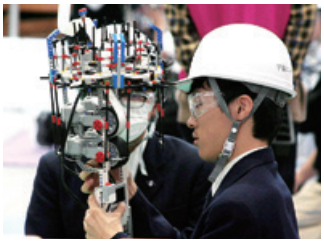
SDGs Cooking Innovation Labを実施

11月23日（土・祝）、クックパッド株式会社、静岡聖光学院中高とのコラボレーション企画「SDGs Cooking Innovation Lab」を実施しました。ジェンダー平等の問題をテーマに、クックパッドのキッチンラウンジを会場として、中高一貫の男子校の生徒たちが実際に料理をつくり、レゴを使って「料理したくなる世界」について考えました。事前の11月14日（木）は聖学院中高にて世界の台所探検家、クックパッドの岡根谷実里氏による講義とワークショップを実施。聖学院中高、女子聖学院中高生徒およそ40名が参加し、料理への関心を高めました。

聖学院中学校・高等学校

宇宙エレベーターロボット競技会全国大会に出場

聖学院高校物理部は11月4日（月・祝）に神奈川大学を会場に行われた、宇宙エレベーターロボット競技会全国大会に出場しました。地区大会を勝ち抜いた48チームが集まり、プログラミングをしたロボットを使って地上から4mの高さに設置された宇宙ステーションへピンポン玉を運んだり降ろしたりする競技を競いました。惜しいところで3位までに入賞することは叶いませんでしたが、好成績で終えることができました。参加した生徒は高1なので、今回の経験を活かして来年またチャレンジです。



※学校法人聖学院はグローバル・コンパクトに署名・加入し、SDGsを目指した活動を行っています。
※SDGs…2030年までの実現をめざし掲げられた、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標」

女子聖学院中学校・高等学校

北とぴあ演劇祭で公演

「演劇文化をより身近に生活のなかへ！」をキャッチフレーズに、北とぴあ演劇祭（主催：北とぴあ演劇祭実行委員会／北区文化振興財団）が9月7日（土）～10月14日（月・祝）に行われました。アマチュア、プロの垣根を越えてつくりあげる舞台に女子聖学院高等学校演劇部も「さよならの口づけをして」のタイトルでコメディに挑戦。約150席の北とぴあペガサスホールは満員となりました。また、10月6日（日）に竹ノ塚区民センターホールで行われた城東地区大会にも同作品で出場。19校発表の中から最優秀賞となり、11月17日（日）池袋芸術劇場にて都大会で上演を行う活躍となりました。

女子聖学院中学校・高等学校

114周年記念祭を開催

11月2日（土）・4日（月・祝）に創立114周年の記念祭を開催しました。今年度のスローガン「Teenage Dream」は、青春の思い出になるよう、そして何十年先も心に残るような記念祭になるようにという想いの表現。校庭、校舎内で様々な出店、各クラブによる展示発表やパフォーマンスが行われました。両日ともに穏やかな天候に恵まれ、多くの方にご来校いただきました。生徒たちには笑顔が溢れ、楽しく充実した2日間となりました。

聖学院小学校

校内作品展

10月23日（水）～25日（金）、図工の授業で制作した作品を展示する「校内作品展」を開催しました。動物や天使、ピエロにUFOなど、様々なテーマにそった感性溢れる作品を展示。どの作品も児童たちの熱意が伝わってくるようでした。たくさんの力作に、保護者を中心とした来場者の方々は、作品を十分に楽しまれていました。

聖学院小学校

交通安全指導

11月22日（金）に滝野川警察署より交通安全指導を受けました。対象は1年生。警察官の方からクイズ形式で道路の渡り方や自転車の乗り方について学びます。どうして道路を渡るときに手をあげるの？青信号で渡る前に確認することは？の質問に一斉に手を挙げる児童たち。お話を聞いたのち、体育館に設置された信号機にしたがって実際に渡る練習もしました。警視庁のシンボルマスコットであるピーポくんも登場し、歓声があがりました。

※学校法人聖学院はグローバル・コンパクトに署名・加入し、SDGsを目指した活動を行っています。
※SDGs…2030年までの実現をめざし掲げられた、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標」

聖学院幼稚園

創立記念礼拝

10月29日（火）、聖学院幼稚園は107周年を迎え、創立記念礼拝を保護者の方々と一緒に守りました。ホールには園旗や花が飾られ、いつもと違う雰囲気に。礼拝では、年長組によるハンドベル賛美奉献を行いました。幼稚園のお誕生日ということで、紅白饅頭が配られ、子どもたちもにっこり。嬉しい特別な1日となりました。

聖学院幼稚園

点火式

11月22（金）、聖学院小学校と合同で、クリスマスツリー点火式を行いました。チャペルの照明が落ち年長組による点火の合図で、ツリーに鮮やかな明かりが灯ると、チャペルからは歓声があがりました。児童によるハンドベルの演奏や讃美歌が捧げられました。外があいにくの雨のため、今年は校舎の中で、先生たちのギター演奏に合わせて歌をうたい楽しい時間を過ごしました。

聖学院みどり幼稚園

プレイデー

11月9日（土）にプレイデーを行いました。他の幼稚園では「運動会」と呼ばれる行事ですが、みどり幼稚園では保護者へ運動の成果を見せるためのプログラムとしては位置づけていません。日々の保育の中で生まれた遊びを拡大し、子どもたちが主役となって思い切り体を動かすプログラム。演目も毎年変わります。台風の影響で延期になった日程ですが、今回は快晴となり子どもたちの笑顔溢れる1日となりました。

聖学院みどり幼稚園

収穫感謝祭

私たちに必要なものを与えてくださる神様に感謝して収穫感謝祭を行いました。11/21（木）に子どもたちが家庭から野菜や果物を持ち寄り、プレイルームに飾って全園児で礼拝を守りました。翌日はそれを調理して会食。子どもたちもお米をといだり、野菜の皮をむいたり、切ったりし、ボランティアのお母さんたちに仕上げてもらって、今年はカレー、八宝菜、大根の味噌汁というメニューになりました。みんなで食べる食事はおいしくて、何度もおかわりをする子どもたちでした。

※学校法人聖学院はグローバル・コンパクトに署名・加入し、SDGsを目指した活動を行っています。
※SDGs…2030年までの実現をめざし掲げられた、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標」

Our Mission

聖学院大学総合図書館
（上尾キャンパス）

大学総合図書館の役割には大きく分けると三本の柱があります。研究・教育・学習に関わる情報の支援、情報リテラシーの専門家である司書による人的支援、そして図書館という空間の提供です。

教員への情報支援では、研究活動に必要な論文を取り寄せたり、調べたい事柄が書かれた文献を探し出して提供します。他大学や海外の図書館に依頼してコピーを送ってもらうこともあるので、事務職のなかでも横のつながりが大きい部署です。学生への学習支援としては、図書検索や論文検索などレポート、論文を書く上で欠かせない知識や技術のオリエンテーションや、パワーポイントの使い方を教えたりしています。また本のプレゼンをするビブリオバトル※というものを行なっています。ビブリオバトルは「読む・聞く・話す・書く」といったアカデミックスキルの育成につながります。

大学教育の多様化とともに、図書館に求められる役割やニーズも変化しています。館内にアクティブラーニング室を設けたのも、学生がゼミの仲間で集まって議論しながら勉強するといった学習形態の変化に対応するためです。ネットで情報が得られる時代なので、紙から電子媒体への移行という環境の変化への対応も課題です。そういった変化のなかで、もっと図書館に来てもらえるよう私たちも積極的に呼びかけています。絵本のワークショップや書評コンテスト、先生方による講演会などを企画・プロデュースしているのはその一環です。

大学での学びは本来楽しいものですから、図書館も学生にとって楽しい場所であってほしい。大学のなかで学生が一番行きたい場所になるようにしたいと思っています。

Our Mission

1.
研究・教育・学修の支援

2.
情報サービス基盤の整備

3.
情報と人、人と人をつなげる空間の創造

※ビブリオバトル
2007年、当時京都大学にいた谷口忠大先生によって考案された書評のゲーム。自分の持ってきた本を一人ずつ5分間でプレゼンテーションし、2〜3分の質疑応答を行う。全員発表が終わったところで、一人一票で、一番読みたくなった本（チャンプ本）を決める。

●STAFF
中山浩二・飯田秀美・白水三千代・
田山恭司・堀内紀伊子・近藤あずさ・
永井美果・稲村光与

●オフィス
聖学院大学　総合図書館

EPISODE #7

聖学院歴史探訪

#7 聖学院生誕の地 -前編-

聖学院神学校の始まりは、1903年2月とされています。この年に神学校が開校したとき、校舎はありませんでした。そのため、同じディサイプルス派である本郷基督教会の二階を借りて神学校は始まったのです。

しかし、この本郷基督教会の所在地が長らくわかりませんでした。古い文献でも「本郷はわがミッションが東京で最初に伝道したところ。（中略）明治23年7月ここに伝道所を開設した。ただしその場所は明らかでない。同年秋に秋田から東京に移ったスミス夫妻が西片町に居を定め、ミス・ジョンソンとともに住んだというから、その辺りかもしれない※1」とされているだけで、その住所を特定できずにいたのです。

ところが、2015年7月の半ば、大川功・司書教諭によって、教会の場所が特定できました。女子聖学院に関わった詩人、八木重吉に関係する資料の中に、本郷基督教会の名前と所在地が書かれていました。これをもとに1912年版の地籍地図にあたったところ、そこには確かに「基督教會」と記されていたのです。（後編に続く）

※1 秋山操『基督教会史』基督教会史刊行委員会、1973年、417頁。

学校法人 聖学院　理事長／清水　正之　院長／山口　博

〒114-8574 東京都北区中里3-12-2　Tel 03-3917-8351
ホームページ https://www.seig.ac.jp/　E-mail pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

■さいたま上尾キャンパス

聖学院大学
・政治経済学部／政治経済学科　・人文学部／欧米文化学科　日本文化学科　児童学科　・心理福祉学部／心理福祉学科
学長／清水　正之　創立／1988年　〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号　Tel 048-781-0925

聖学院大学大学院
政治政策学研究科／アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科／人間福祉学研究科
創立／1996年　〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号　Tel 048-780-1801

聖学院みどり幼稚園
園長／山川　秀人　創立／1978年
〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820　Tel 048-622-3864

■駒込キャンパス

聖学院 中学校 高等学校
校長／角田　秀明　創立／1906年
〒114-8502 東京都北区中里3-12-1　Tel 03-3917-1121

女子聖学院 中学校 高等学校
校長／山口　博　創立／1905年
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2　Tel 03-3917-2277

聖学院小学校
校長／佐藤　慎　創立／1960年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-1　Tel 03-3917-1555

聖学院幼稚園
園長／佐藤　慎　創立／1912年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-2　Tel 03-3917-2725

●インターネットでの寄付のお申し込みについて

クレジットカード（VISA、MasterCard）をお持ちの方は、お申し込みから入金までご自宅等で、PC、スマートフォン、携帯電話からインターネットによるお手続きができます。下記URL、QRコードにアクセス下さい。

https://www.seig-asf.jp/fund/

住所変更・お問い合わせは下記までお願いします。

学校法人聖学院ASF事務局　Tel 03-3917-8352